

B—39 近世以降における農民服飾に関する研究  
(第四報)

被服構成よりみた農民服飾(二)

和洋女子大 遠藤 武  
○鷹司 綸子

1. 農民服飾第4報として昨年発表した被服構成の第2報、付属品に関する問題を取りあげた。

農村の衣生活の中で、手甲、脚絆、冠物等その付属品は身体の活動を助け、外傷から保護するものとして、無視することのできない発達をとげ、ときには着物と同化し、不可欠の構成物をなしている。

2. 和洋女子大学服装史研究室施行の「農山漁村労働着調査」の調査報告、地方誌、民俗誌、労働着雛形を主な資料として使用、昨年 of 労働着と併行して実物調査を引続き行なっている。

3. 労働着の一部式・二部式服飾構成に対する手甲・脚絆・袖とたすきの問題等、副装品の構成ならびに名称について解明を試みた。